

(様式2)

平成 30 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591300056		
法人名	社会福祉法人吉田福祉会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	新潟県燕市佐渡山4130-1		
自己評価作成日	平成30年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成31年1月31日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H28年4月より1ユニット9名に増床致しました。全体的な雰囲気はそれまでとできるだけ大きく変化させないようにしながらも、新しいさわらびの形をご利用者の方々で作ってきました。  
併設の小規模多機能センターとはフロアが分けられていますが、ご利用者同士は気にすることなくお互いのフロアを行き来し交流されています。作業や余暇も一緒に協力して行っています。  
また個々のペースを考えながら、確認しながら楽しみを持って生活して頂けるよう支援しています。重度化はしているものの、今まで行なってきた地域との交流はできるだけ継続するよう工夫し、さらに新しい交流を求めて中学校吹奏楽部の演奏会、他事業所のお祭りにも参加しました。  
日常的なものも含めて地域と交流している成果か、サポーター養成講座の依頼や介護保険サービスに関する問い合わせを頂くこともわずかですが増えつつあるように感じています。  
防災面では2年ほど前から実施したいと考えていた隣接する北地区公民館との合同避難訓練を、今年度初めて実施することができました。結果としては現実的な課題を実感することばかりでしたが、継続して行ない、ゆくゆくは北保育所、可能であれば地域住民にも参加して頂けるような訓練にしていきたいと考えています。  
これからも地域とのつながりを保ち、さわらびでの取り組みを発信していきます。また「急がず・焦らず・ゆっくりと」を理念とし、ずっとここで暮らしたいと思ってもらえるような支援に日々努めていきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、幼児から高齢者、障害者まで地域の「みんな」協力して助け合い支えていくことを理念とし、小学校区に1ヶ所の拠点となる福祉施設を整備してきた。地域を意識した理念は職員の働きがいにもつながり、わかりやすい理念はしっかりと浸透しケアに活かされている。  
当事業所は幹線道路から離れた田園地帯の真ん中に立地しており、体育館、公民館、保育園が隣接する敷地内にある。周りに民家が少なく地域住民との日常的な交流は難しいが、隣接する公共施設は来館者や保護者、児童がほぼ毎日利用しており、事業所で飼っている猫を介して園児や保護者が訪ねてきたり、お茶飲みをしたり、介護相談を受けるなど、少しずつ交流が生まれてきている。今年度は、公民館と合同で避難訓練を実施したが、協力体制の難しさを感じた反面、保育園、体育館とも協力体制を整備していく必要性を認識する機会にもなった。  
事業所の職員のほとんどが介護福祉士資格の取得者であり、専門性に基づいた認知症ケアが実践されている。理念である「急がず、焦らず、ゆっくりに」を常に念頭に置き、場面場面で振り返るための礎としている。小規模多機能型事業所との一体運営の大変さや、利用者の重度化による介護量の増大がある中でも、ケアの質に目を向け、自立している利用者へのフォローも忘れない職員の言葉から、事業所の実践の素晴らしさを窺い知ることができた。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は再検討した結果、今までと同じものが良いと管理者と職員で確認し合った。事業所内の数か所に掲示して常に意識できるように努めているとともに、職員全員が共有して実践につなげている。	法人の理念は、幼児から高齢者まで地域の「みんな」で支えて行こうというもので、職員一人ひとりに浸透している。開設時に作られた事業所理念は、定期的に職員間で話し合わせ、見直しの検討もされてきたが、実情に合ったわかりやすい理念であるため変わりなく受け継がれている。ケアの場面では常に立ち返るための礎となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地から離れており、日常的な交流は多くない。しかし地域の行事がある時には積極的に参加し、逆に行事のために敷地を会場として開放する等の協力を行っている。また飼っている猫にはほぼ毎日、誰かしら会いに来てくれる。その方々には積極的に話しかけるようにしている。	隣接する体育館、公民館、保育園を訪れる地域住民や保護者、児童が、事業所で飼っている猫に会いに訪ねてくることをきっかけとして、お茶飲みから福祉の相談まで交流が広がっている。事業所敷地内で行われる地域の祭りの運営協力や、小地域で行われている他地区の祭りに出向いて交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事の際に出かけ、日常実践している支援を自然な形で見て頂いている。認知症のサポーター養成講座についての依頼があった場合は積極的に引き受け、地域包括と協力して開講している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、利用者・家族の代表者、市の福祉課職員、地域包括支援センター職員、自治会長をメンバーとし開催している。その際に利用者の状況や外部評価の報告等を行ない、サービス向上に活かしている。	参加メンバーは変わらず、定期的で開催されている。事業所のフロアで行われているため、利用者の生活状況を直接見てもらいながら、忌憚のない意見をもらうことができている。事業所からの報告事項の他、今年度は一部のメンバーに避難訓練の状況を見てもらうことができた。	参加メンバーを再考する中で、隣接する保育園、体育館の職員に参加を打診したが実現しなかった。共通の課題である防災をテーマとして、開催日程を柔軟にすり合わせることで参加が可能になるのではないだろうか。また、日頃から付き合いのある他事業所の管理者等と会議への相互参加を行うなど、多様な参加者の意見を聴取して運営に活かしていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険担当者が運営推進会議の構成員であり介護に関することはもちろん、日頃から連絡を取り合い、協力関係を築いている。	市の担当者には運営推進会議に参加してもらい、行政の立場からの貴重な意見を頂いている。日頃から電話やメールでのやり取り、必要時には訪庁して顔の見える関係を築いている。市の主催する研修会や会議などでも顔を合わせる機会が多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためのマニュアルを作成し、委員会も設置している。定期的に委員会の開催と身体拘束に関する研修を行なっている。身体拘束をしないケアを当たり前として取り組んでいる。	マニュアルを整備しており、地域包括支援センター職員を講師に招いた研修会の開催などを通して、身体拘束をしないケアに努めている。必要に応じて市が推奨するモニター型センサーを設置しているが、使用が適切かどうかの検討を常に行い、職員には間違った使い方をしないように周知している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防マニュアルを作成、事業所内で定期的に虐待防止についての研修を行ない、関連法律等を学ぶ機会を持ち、介護職員としての責務を周知している。また、適宜事例を通して、学ぶ機会を持っている。	マニュアルを整備し、地域包括支援センター職員を講師に招いた研修会の開催などを通して虐待の防止に努めている。また、新聞やニュースで虐待の報道があった時は、記事について取り上げ考える機会を作っている。ストレスチェックを実施するなど、職員のメンタルヘルスにも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で定期的に研修を行ない、権利擁護について学ぶ機会を持ち、意識の向上を図っている。また、地域包括支援センターの社会福祉士に説明・講義を依頼したりもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご利用者及びご家族に十分説明し、理解納得を得ている。契約後も必要があれば、そのつど説明を行なうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、ご利用者から出てくる意見や要望を大切に受け止め、可能な限り実践している。面会時は積極的に話しかけ、ご家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。また、ご家族から年に1回文書で意見、要望を伺い、内容を検討し、運営に反映させている。	意思表示の難しい利用者が多いため、質問の際には選択肢を用意するなど配慮をしている。また、家族にも日用品の補充依頼の連絡の際などに確認している。法人全体として年に1回、「ご意見承り書」を送付し、事業所のサービスに関する意見の収集を行っている。寄せられた意見によりお小遣い帳の写しを送付するなど、事業運営に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等において、職員から自由に意見・提案をしてもらう機会を作り、運営に反映させるよう努めている。年1回「自己申告書」を提出、意見や要望が直接代表者に届く機会を設けている。必要に応じて事業統括管理者層の会議で検討され、運営に反映させている。	「何でもノート」を活用し、職員からの自由な意見聴取と情報の共有を図っており、業務分担の見直しや装飾の変更など、様々なアイデアが反映されている。半期ごとに職員から記載してもらった「育成面接カード」を基に、管理者が個別面談を行い、日頃の思いを聞く機会としている。併せて年に1回、職員が提出した「自己申告書」を法人幹部が直接確認し、必要があれば個々の職員にフィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	総合職には人事考課制度を導入しており、客観的に事実に基づき、本人の役割や勤務態度、仕事に取り組む姿勢等評価している。一般職員には、自らの取り組みたい事を伸ばしてもらうよう、面接して目標を決める育成制度を導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の各専門部会・他事業所の研修及び外部研修についての案内は、いつでも閲覧できるようにしている。自発的な参加はもちろん、本人の役割や経験を考慮して命令にて参加させることもある。可能な限り、参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域での連絡会等にて交換研修や情報交換会を定期的に行なっている。また包括主催のサポーター養成講座にも積極的に協力している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こちらからの声かけをこまめに行ない、ご本人から相談や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。何か相談等あった時には、思いを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月に1回はご本人の様子について文書で報告し、面会時には直近の様子を伝えてご家族から相談や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。何か相談等があった時にはまず思いを受け止め、速やかに対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や介護レベル、医療面の内容等を検討して、必要があれば地域包括や他事業所サービス、専門医の紹介等行ない対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢化・重度化しつつあるがたみものや繕い物、食事の下ごしらえ等、得意なこと・できることは一緒に行なってもらっている。また祭事や季節に合わせて一緒にいなり寿司や団子等作ることで「暮らし」を感じてもらっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を面会時に伝えている。また毎月1回、文書で状況を報告し、写真等も同封している。ケアについても可能な部分のご家族に協力してもらっている。面会時はできるだけ家族での時間を過ごして頂けるように努めている。	家族には、毎月、事業所での利用者の様子与健康状態について文書と写真で報告している。また、面会時には押しつけにならないよう配慮しながら、利用者の思いをそっと伝え、協力を促すこともある。介護計画の確認の際には必ず、家族と面談し意見の聴取を行っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加することで、馴染みの人にも会えて笑顔が見られている。またその場で職員も積極的に話しかける等、面会にも訪れやすいような雰囲気作りに努めている。	小地域ごとに行われている地区の祭りに出掛け、馴染みの人や知人に会える機会を作っている。併設の小規模多機能事業所との一体運営を行っているため、居住スペース以外は住み分けがなく自由に行き来ができ、馴染みの利用者同士いつでも一緒に過ごせる環境にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や人間関係に配慮し、一緒に生活しているという関わりを持ってもらえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族が気軽に立ち寄って下さったりしている。必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローし、相談や支援に応じ、継続的な関わりを持つ姿勢でいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いや意向を日々の関わりの中で気付いた事などを会議等で持ち寄り、把握に努めている。困難な場合は、ご家族等からご本人の人柄や性格、こだわりを聞きながら把握に努めている。	事業所独自のアセスメント様式を使い、利用者、家族の思いや意向の把握に努めている。聞き取った思いや意向はその都度、「何でもノート」や経過記録に記載し、そこから拾い上げたものをアセスメントシートに追記している。意思表示の難しい利用者には選択できるような形で質問し、把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他の事業所を利用していた場合は担当ケアマネからご家族・ご本人の面談により情報の把握に努めている。また、サービス利用中の関わりの中で発見した情報は記録し、その後のサービス提供の内容に盛り込むよう努めている。	入居の際には可能な限り自宅訪問をし、生活環境の把握に努めている。また、利用者との会話の中から情報収集を行って職員間で共有すると共に、介護計画に反映させている。	基本情報を記載するシートの内容に生活歴の項目が確認できなかった。利用者のこれまでの暮らしや馴染みの人、場所などを把握することは事業所での生活を豊かにするために必須の情報である。情報を集約できるような様式の検討を期待したい。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の持っている力、日々の生活の中で変化する心身状態等を観察し、情報共有を図っている。また必要時には支援計画に反映し、実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望・意向に関わりの中で聞き出し、ご家族の思いや他職員の意見等も求めながら担当職員が計画を作成している。設定した期間を基本に見直す、ご本人の状態変化、家庭環境の変化、また新しい発見等により適宜計画を変更している。	介護計画やモニタリングは事業所独自の様式で作成されており、利用者個々のニーズに沿った計画となっている。担当職員と計画作成担当者で検討した計画案について利用者本人、家族を交えて話し合い、正式な介護計画として作成している。必要に応じて、主治医や看護師にも参画してもらい意見を聞いている。	毎月モニタリングを行っているが、家族に利用者の状況を報告しているそのままの内容のものであり、介護計画の課題やサービスに対しての評価とはなっていない。一連のサイクルの中でケアマネジメントが連動するように、様式の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は事実やケアの気づきを具体的に記載し、情報として共有し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能センターとの交流を活かし、職員やセンターの機能を共有し、柔軟な支援を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する北保育所と北体育文化センターとは良い関係を築いており、ご利用者の支援の一部に活かされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連絡を取り合い、関係は良好。今までかかりつけ医がいなかったご利用者については、紹介したりしながら適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者それぞれのかかりつけ医を大切にしており、家族の受診対応が難しい場合は事業所が支援している。法人内の訪問看護師や歯科衛生士等からも助言や指導を受けながら円滑に受診が行えるよう努めている。医療機関には直接、電話や口頭で報告や相談を行って指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は法人の訪問看護ステーションに委託契約しており、健康管理に必要なアドバイスをもらっている。また、互いに情報を交換しながらご利用者を支え合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早々に入所中の状態を病院側に情報提供し、病院との関係作りを積極的に行なっている。こまめな情報交換、必要時には退院前にカンファレンスを開催し、安心して退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化等いつもと違う様子に気付いた時は、職員間で情報交換・必要時は主治医やご家族へ速やかに相談・事業所でできる事を伝えながら・ご本人の思いも大切にしながら支援している。また、折に触れて定期的にご本人・ご家族に終末期についての意向を確認している。	事業所の方針として、家族や本人の希望があれば看取りまで行っている。職員にも方針は周知されており、話し合いや研修会を通して準備を整えている。本人の心身レベルの段階に応じて、家族や本人と相談しながら文書で説明し、看取り介護計画を作成して同意を得た上で医療との連携体制を整え、対応している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を定期的に通っている。また事業所内では、急変時や事故発生時の対応がマニュアル化されており、折に触れて確認や研修を行なっている。	想定する急変や事故の発生時の対応に対してのマニュアルをフローチャートにして、職員がいつでも手に取れる場所に設置している。消防署に出向いての救命講習は定期的な受講を義務づけている。また、マニュアルを基にしてシミュレーション訓練を実施したり、訪問看護師から感染症の対応訓練を受けるなど、実践力の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画(災害計画)に従い、避難訓練や設備点検を行なっている。避難訓練はご利用者とともに実施している。協力体制作りに向けて地元消防団への挨拶は行なったが、まだ具体的なものはできていない。立地や地域の特性も踏まえながら検討・整備中である。	定期的に避難訓練を行ない有事に備えている。今年度は、隣接する公民館と合同で訓練を実施することができたが、協力体制を更に広げるために保育園、体育館、地元消防団への働きかけを続けているところである。有事の際には法人本部に連絡することで関連施設、職員に一斉メールが送信され、協力を得られるシステムとなっている。	有事の際に相互に協力が得られるよう、少なくとも隣接する公民館や保育園との話し合いを継続して欲しい。併せて、昨今の自然災害の発生状況に鑑みて、風水、雪、雷、停電などを想定した訓練を計画し実施することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入室する時、介助を行なう時等、ご本人の承諾を得てから行なう事を心がけている。ひとりひとりの人格を尊重し、ひとりひとりにかける言葉を工夫している。	接遇や権利擁護の研修には積極的に参加して学びを深めている。また、事業所のコンプライアンスマニュアルを職員一人ひとりが理解した上でケアにあたっており、介助に入る際、居室へ入室する際などには、必ず利用者の承諾を得てから行うよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が思いや希望を表現しやすいような雰囲気作りや声掛けを心がけている。自分で決めたり、納得しながら暮らすことができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自身で過ごし方を決定できる方はそのように支援しているが、重度化によりできない方が増えた。午前が入浴、午後は静養という方がほとんど。ご本人の様子や今までの生活スタイルを考えながらの職員の働きかけで過ごしている方が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は行きつけの場所に通えない方は固定の訪問サービス業者を利用してもらい、なじみの関係もできている。身だしなみについては、できる方はだけご本人に行なってもらい、好みの物を身に付けてもらえるよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日には好きな物を食べてもらえるようにしている。普段の会話の中から、時期の食べ物、地域特有の料理をお聞きし献立作りに役立っている。後片付け等は小規模多機能の利用者と一緒に行なっている。	食事場所は事業所のテーブルにこだわらず、小規模多機能型事業所の仲の良い利用者と一緒に食べられるよう配慮している。時間が掛かっても大丈夫な野菜の皮むきや食器拭きなど、利用者ができることを無理なく行ってもらっている。ご飯だけでは食が進まない方にはふりかけやなめ茸などで工夫をしておいしく食べてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の観察を行ない、必要時には補食の用意・法人の看護師や栄養士に相談を行なっている。個々に合わせて食形態や制限食の配慮を行ない、必要な栄養がちゃんと摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっている。必要時には法人の歯科衛生士に相談し、助言をもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる方には、できる限りトイレでの排泄が継続できるよう支援している。尿・便意が認識できにくくなってきた方には、関わりの中で排泄のサインを見つけ出し不快な思いをさせずに済むよう努めている。	トイレでの排泄を促しているが、重度化が進みオムツの使用と定時交換を余儀なくされている状況がある。排泄チェック表を使用して利用者の排泄パターンの把握に努め、少しでも改善できるよう試みている。全身状態の良化により、オムツからトイレでの排泄に改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立は栄養士の作る献立を参考に、バランスのとれたものを心がけている。重度の便秘の方には排便状況を把握し、下剤の調整を行なっている。ご家族・ご本人の希望によっては乳酸菌飲料等を中心に、便秘解消を図るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	小規模多機能センターが併設のため、入浴設備も共有となっている。そのため曜日や時間はある程度決めさせて頂いているが、ご本人の希望やその日の体調に合わせて柔軟に対応している。浴槽は3種類あり、状態に応じた入浴が可能である。	浴槽が個浴槽、機械浴槽、特殊浴槽と3種類あるため、利用者の状態に応じた入浴が可能となっている。利用者や家族の希望に応じて、入浴回数や時間、介助者など柔軟に対応している。入浴係を中心に、月替わりの変わり湯を用意したり、脱衣室に手作りのアロマキャンドルを置き、目や匂いで楽しんでもらえるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれの生活習慣を尊重し、安心・安全・自由に過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報が必ずファイルに綴じてあり、必要時に確認している。また、より専門的に服薬支援ができるよう、居宅療養管理指導を導入している。この制度を希望されない方であっても、同じ薬局の薬剤師に相談できる関係ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自のできることや楽しみを見つけ出し、介護計画に反映・支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるような外出はもちろん、地域や近隣で行事がある時は積極的に外出支援を行なっている。地域行事はご家族にも案内を出し、お誘いしている。外出とまていかなくとも、気分転換に玄関先でひなたぼっこをしつつ、保育園児の散歩の列に手を振ったりしている。	季節ごとの花見や地域の祭りのほか、予定をしないなくても柔軟に外出することもあり、小規模多機能型事業所の利用者と合同で出かけることも多い。全て報告書を残しておくことで、次年度の外出計画の参考に出来るようにしている。また、天気の良い日は事業所前の敷地でお茶のみや体操をしながら、保育園の園児との交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の嗜好品の購入やお祭り、行事で外出した際にご本人にお金を所持してもらい、買い物を楽しんで頂く機会を持っている。可能な方は定期受診時にも、同様にしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望がある、不安感がある時等、電話の使用の支援はいつでも行なうことができる。手紙も同様に要望があればいつでも支援できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すっきりと使いやすい空間になるよう整理整頓を心掛けている。また季節感のある飾りやイベント情報がわかるように配慮している。また最近の出来事の写真を掲示して楽しい思い出を振り返ったり、ご家族にも日常を見てもらえるような機会を作っている。	小規模多機能型事業所とスペースはわかれているが、自由に行き来ができ、双方の利用者には思い思いの場所で過ごしてもらっている。窓から見える田園風景で季節の移り変わりを感じることができ。フロアの壁にはたくさんの写真が装飾と共に貼られており、利用者の目を楽しませている。所々に利用者と職員とで作成した創作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ併設小規模多機能センターで昔なじみの仲間と自由に談笑したり、グループホームフロアでお茶を飲みながらテレビ鑑賞や他者の談笑に耳を傾けてもらったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たたみの部屋は1室のみ、他はフローリングになっている。ご本人のこれまでの生活や現状に合わせて、使いやすい部屋になるよう工夫している。愛用していた家財道具などの持参もお願いしている。	後から増床した3部屋は造りが変わっており、利用者の状態によって使い分けをしている。居室には自宅で使っていた馴染みの家具や飾り物、冷蔵庫や携帯電話など何でも持ち込んでもらい、居心地の良い空間が作られている。また、各居室は内側から鍵を掛けることができるため、プライバシーが守られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には大きめの字で表札があり、トイレや浴室のドアにも大きめの字で札が付いている。(表札については、ご本人の希望を聞いてから取り付けている。)		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				